

## 宮島双六観光マップ製作プロジェクト

報告：釣谷幸輝

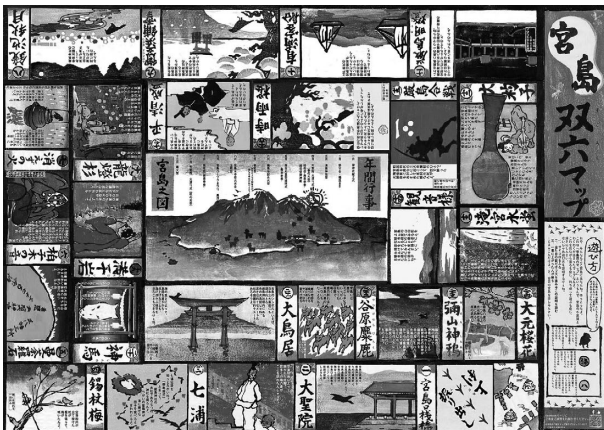
研究代表者：釣谷幸輝

研究分担者：鈴木敦子、城市真理子、古澤嘉朗、チャールズ・ウォーゼン

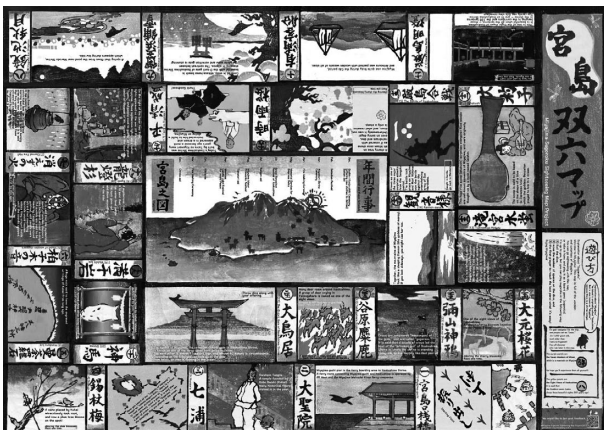
### ■目的

本プロジェクトは広島市立大学が文部科学省平成28年度地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)におけるアートプロジェクトの一環として行なわれたプロジェクトであり、ここでは『版画を用いた宮島観光マップ(宮島双六)の製作と研究』として「観光」をキーワードとし、「海の国際文化生活圏」創生のポイントである「宮島」を訪れる観光客にむけた新しいかたちの観光マップづくりを学生たちが主体となって製作することで、今後、地域に貢献できる人材の育成を目指したものである。

### ■概要



宮島双六観光マップ(日本語バージョン)



宮島双六観光マップ(英語バージョン)

日本有数の観光地として名高い宮島には年間2,000万人以上の観光客が訪れているにも関わらず、現在ある宮島観光マップの多くには、一部の建造物や限定されたルートでの観光スポットしか紹介されておらず、1400年もの歴史を持つ宮島の魅力を十分に堪能してもらうには至っていないと考えた。

そこで、観光客にとってあまり知り得ない情報や、宮島独自の歴

史、伝統文化といった点を取り込みながら、学生たちの若い感性により切り取られた宮島の魅力を、利用者にとってより分かりやすく、なおかつ利便性を備えたツールとして、これまでにない新しい形式の観光マップの制作を行い、宮島を訪れる観光客に対しより深く宮島の魅力を知ってもらうこととした。

宮島は歴史的にも重要な意味を持った地区であり、伝統的に数多くの工芸文化が息づいている地域であるため、複数性を特徴とした版画技法の中でも敢えて浮世絵に代表される日本の伝統的な技法である板目木版画技法を用い、「双六」という日本独自の様式を持った「遊び」を宮島の観光マップに取り入れることによって、楽しみながら観光客の視点を宮島の伝統文化にリンクし、アピールできるものとした。

また近年においては海外からの訪問客も増加しており、これに対応する必要もあることから、芸術学部の学生のみならず、国際学部の学生や留学生とも協力し合い、「双六観光マップ」の英語バージョンも製作した。これは単に外国語表記のある観光マップとは違い、宮島、ひいては日本の伝統文化に親しんでもらえるツールとして活用されることを目的とした。

具体的には、A1版(594×841mm)サイズに学生たちが板目木版画技法で摺った双六形式による観光案内図とし、原版もしくはオフセットによるものを宮島口、宮島棧橋等において無料で配布。また単なる製作にとどまらず、実際に観光客に使用してもらった感想を調査することで今後の宮島観光の課題とした。

デザインとしては、江戸後期双六に見られる浮世絵双六の様式を取り入れつつ、明治、大正、昭和といった近代における大衆文化として普及した要素を考察しながら製作を行った。

平成 28 年度

6月 参加者募集開始、ガイダンス。

8月 平成 28 年度 社会連携プロジェクト「厳島八景に関する教育事業」

『厳島八景遊覧プロジェクト - 景観の歴史とアートを学ぶ -』

9月 第1回木版画技法講座の開催。(講師 木版画家 鈴木敦子氏)

9月 平成 28 年度 市大生チャレンジ事業

『伝統的板目木版画による宮島観光マップ製作のための調査研究』

日本伝統文化としての「双六」に関する調査を行う。

3月 第2回木版画技法講座の開催。(講師 木版画家 鈴木敦子氏)

平成 29 年度

4月 原図制作

5月 デザイン決定

6月 製版開始

7月 英語翻訳文の作成

- 8月 摺り開始
- 10月 オフセット印刷入稿
- 11月 観光マップの配布、使用状況の調査
- 12月 「大学連携による学生の観光研究・活動発表会 2017」での発表  
サテライトハウス宮島にて「宮島双六観光マップ製作プロジェクト展」開催

### ■宮島での取材



観覧船での七浦巡り



向田氏による解説

観光マップを製作するにあたり、まず宮島の歴史について知る必要があることから、国際学部の城市真理子准教授による広島市立大学社会連携プロジェクトとして、平成 28、29 年度の2度にわたり行われた「厳島八景に関する教育事業」厳島八景プロジェクトに参加した。ここでは宮島の歴史や伝統文化についての研究者である向田裕始氏や城市真理子准教授から解説を聞き、厳島八景に関する場所を中心に弥山七不思議や七浦など島内の主だった名所を巡った。観光マップの作製にあたり、ここでの取材は双六のコマ設定において生かされている。

### ■平成 28 年度 市大生チャレンジ事業

#### 『伝統的板目木版画による宮島観光マップ製作のための調査研究』



双六の調査（奥野かるた店）



双六の調査（町田市立国際版画美術館）

平成 28 年度市大生チャレンジ事業として日本の伝統的な遊戯である「双六」に関する様式および歴史についての調査を行った。これは観光マップを単なる観光ガイドとせず、「遊び」の要素を取り込むことで観光客が楽しみながらマップを利用できることを目的としたためである。また合わせて版画に使用する紙など画材の調査も行った。調査で訪れたのは主に次の5ヶ所、奥野かるた店、たばこと塩の博物館、昭和館、紙の博物館、町田市立国際版画美術館である。各々の施設で極力、学芸員等の方々にアポを取り解説を依頼し話を聞くことで、双六の様式が年代によって大きく異なっていること、様々なアイデアが取り入れられた型にはまらないユニークな発想のものが多く存在すること、使用された和紙の耐久性などが判明。これらを理解することで、今後、宮島双六観光マップの製作していく上での必要条件を考察していくこととなった。

### ■板目木版画ワークショップ

#### 第1回 板目木版画ワークショップ

日程：平成 28 年 9 月 9 日（金）～ 11 日（日）



場所：広島市立大学 版画工房

参加者数：15名

#### 第2回 板目木版画ワークショップ

日程：平成30年3月25日(土)～27日(月)

場所：サテライトハウス宮島

参加者数：8名

#### サテライトハウス宮島開設記念展

日程：平成30年6月17日(土)、18日(日)、24日(土)、  
25日(日)、7月1日(土)、2日(日)

場所：サテライトハウス宮島

第1回目、2回目ともに現在、日本を代表する木版画家である鈴木敦子氏を招き、板目木版画技法の基本的な知識と技術の指導を行っていただいた。またこれらのワークショップで制作された作品は、広島市立大学がCOC+の採択を受け宮島に開設したサテライトハウス宮島の開設記念展において展示された。

ほとんどの参加学生にとって本格的な板目木版画技法による作品制作は初めてのことであり、慣れない作業が多いながらも講師による丁寧な指導により終始和やかな雰囲気の中での制作となった。とりわけ水性絵具による多色摺りによる柔らかな風合いの表現には多くの学生が魅了された様子で、日本の伝統的な技術習得のための導入という当初の目的は十分に達せられたと感じる。なお最終日は大学停電日と重なっており屋外での作業となったが、かえって自然光の中での作業により、作品の色彩に対する感覚を得るよい機会となった。

作品のテーマは自由としたが、事前に行った宮島での取材から約半数の学生が宮島を題材に選んでおり、観光マップづくりに直接生かせるものとなった。またバレンの竹皮包みの方法を習うなど、今後のマップ製作の過程において必要になるであろう技術も学ぶことができた。



第1回木版画ワークショップ（制作風景）



第2回木版画ワークショップ（話し合い）



第1回木版画ワークショップ（完成作品とともに）



第2回木版画ワークショップ（製版作業）



第2回木版画ワークショップ（完成作品とともに）



サテライトハウス宮島 開設記念展

2回目となるワークショップでは実際にマップ作りを想定した内容のモチーフを選び、より実践的な木版画技法習得をその目的とした。

初日に今後のマップづくりの計画概要を皆で話し合った上で、必要に応じ取材を行った。今回は宮島サテライトに泊まり込みで制作できるとあって、皆、時間を気にせず落ち着いて制作できたことが良かったと感じられる。実際にマップづくりに用いられる紙や色数、版数も想定し制作を行ったことで、各々が観光マップ製作に向けてより具体的な制作イメージを持つことができた。また作品制作のみならず、版画制作において重要な意味を持つ彫刻刀の研ぎについても教わり、今後の持続的な板目木版画制作に役立つことと考えられる。ほぼ夜を徹して制作した者も多く、気持ちの込められた作品が数多く完成したように思われる。本製作にむけての意識高揚といった点においてもとても有意義な合宿であった。

### ■宮島双六観光マップの実製作

平成29年度に入り本格的に観光マップの製作に入った。ほぼ毎週、版画工房にプロジェクトメンバーが集まり、構成や図柄等のデ

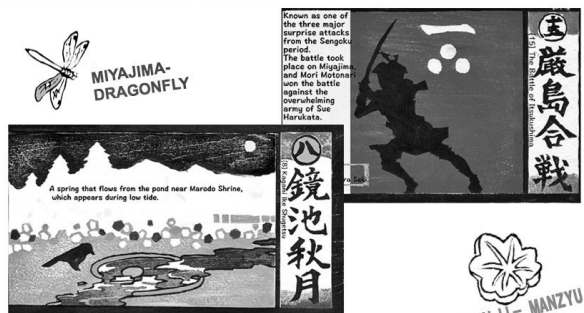
ザインについてアイデアを出しながら話し合い製作する機会を持つこととなった。各自割り当てられたコマや文字の製版を行いながら全体の雰囲気についても統一感を得られるよう工夫しながら制作を行い、とりわけ文字の彫版には時間をかけて丁寧に製版するよう心がけ、また原画の持つ柔らかな雰囲気の再現のためにも、オフセット印刷の紙にこだわるなどマップとしての基本的な機能をできるだけ損なわないように努めた。



観光マップ版木

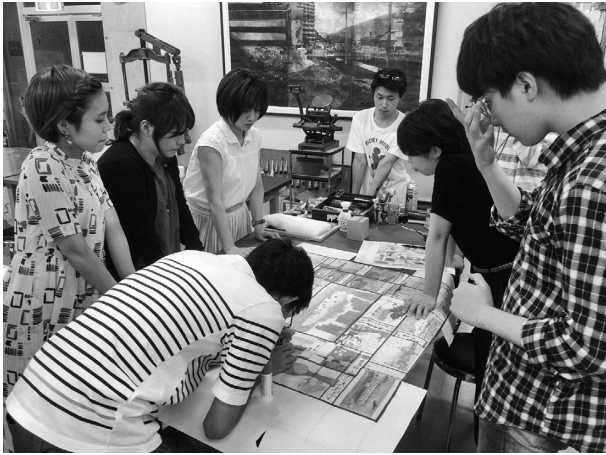


観光マップ日本語（部分）



観光マップ英語（部分）





観光マップ製作風景

### ■宮島内での観光マップ配布



観光マップの配布



観光マップと観光客



Facebook アカウントと G コード

完成した宮島双六観光マップは宮島棧橋で実際に観光客に配布を行うと同時に、フェイスブック上にもアカウントを作成し、観光マップに印刷された G コードからアクセスできるようにした。裏面に英語バージョンを作製していることからとりわけ海外からの観光客から多くのレスポンスが返っている。「見た目がとても素晴らしい!」(アメリカ)、「とてもかわいい! 配色が良い!」(オーストラリア)、「パーフェクト! 観光客が欲しがりそう」(チェコ)、「このマップはオリエンテーリングに使える」(アメリカ) など。これらは短、中期における観光マップの使用状況を把握でき、またそれによって今後の観光マップのあり方についても考察が可能であろう。

### ■地域貢献事業での発表会と宮島双六観光マッププロジェクト展



大学連携による学生の観光研究・活動発表会 2017 での発表

### 大学連携による学生の観光研究・活動発表会 2017

日程：平成 29 年 12 月 16 日(土)～17 日(日)

場所：広島経済大学成風館

参加者数：1 日目 89 名

2 日目 62 名

COC+ 事業の一環として、宮島にある広島経済大学成風館で

成 29 年 12 月 16 日と 17 日の二日間にわたり「大学連携による学生の観光研究・活動発表会 2017」が開催された。これは学生の観光に関する研究・学習能力の向上、それを通じた地域思考マインドの醸成を目的としたものであり、本学をはじめ県内 10 大学が参加した事業である。1 日目には各大学の観光研究および活動についての報告がなされ、2 日目には広島県の食資源勉強会兼交流会や現地講義、現地視察が行われた。

「宮島双六観光マップ製作プロジェクト」においては 1 日目にその報告がなされ、製作過程における変遷や自分たちが取り組んだことの意義などを軽妙にわかりやすく紹介することができたと思われる。また 2 日目には現地視察の際に、同時期サテライトハウス宮島で開催された「宮島双六観光マップ製作プロジェクト展」の紹介を行った。



宮島双六Tシャツ



宮島双六観光マップ製作プロジェクト展 会場風景 1



宮島双六ポストカード



宮島双六観光マップ製作プロジェクト展 会場風景 2

#### 「宮島双六観光マップ製作プロジェクト展」

日程：平成 29 年 12 月 16 日（土）～ 17 日（日）

場所：サテライトハウス宮島

この展覧会ではこれまで制作してきた観光マップの原画を直接観てもらうだけでなく、自分たちが学んできた板目木版画技法の制作工程も展示することで、来場者により分かりやすく観賞してもらえよう工夫をした。また観光マップに使用した絵柄を生かし、「宮島双六Tシャツ」や「宮島双六ポストカード」もそれぞれ数種類作製することで、多角的な商品展開を想定するとともに、宮島の観光についての視野を広げることとした。会場にはこうしたプロジェクトの全容が見て取れるよう展示を行った。

## ■プロジェクトの成果、まとめ

本プロジェクトは「観光」をキーワードとし、地域に貢献できる人材の育成を目指したものである。ここではもっぱら「宮島双六観光マップ」の作製を通して、自分たちが今後いかに地域に貢献できるかを探っていく作業であった。学生ならではの若い感性によってこれまでにない新しいタイプの観光マップをつくる、という目的はとりあえず達成できたと思われるが、ものづくり、商品づくりに留まらない積極的な外部への発信という意味では少なからず課題が残ったと感じられる。一方、参加した学生のほとんどはひとつのプロジェクトを最後までやり遂げたことで「ものづくり」における論理的思考の習得や、日本の伝統文化への造詣が得られ、今後の制作における自信に繋がったものと確信できる。「地域創生」に必要な優秀なクリエイターとしてこれから行っていくであろう創作活動、社会活動等においても大いに期待したい。人材育成という目標は一応の成果を得たものと考え、こうした試みは宮島に限らず多くの観光地で応用が可能であることから、「遊び」と「観光」、「学生」と「地域」との関わりを模索しつつ、他の地域でも応用的に展開することが期待できるだろう。